

公益財団法人 日本骨髄バンク 第108回 業務執行会議 議事録

開催方法:WEB 会議形式で開催

(本会議を WEB 開催することに関して全理事の同意を得た)

日 時:2026 年(令和8年)2月13日(金)17:10~17:35

出 席:岡本 真一郎(理事長)、佐藤 敏信(副理事長)、日野 雅之(副理事長)、
浅野 史郎(業務執行理事)、大西 達人(理事)、橋本 明子(理事)、福田 隆浩(理事)、
岩崎裕彦(監事)、杓沢 一晃(監事)

欠 席:石丸 文彦(理事)、鈴木 利治(理事)、瀬戸 愛花(理事)、高橋 聡(理事)、

陪 席:細川 亜希子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐)
高波 直樹(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室係長)
栗和田 統真(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室)
古館 賢一(日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課参事)

事 務 局:小川 みどり(事務局長兼ドナーコーディネート部長兼医療情報部長)

田中 正太郎(総務部長)、関 由夏(移植調整部長)、水口 詞代(広報渉外部長)、
荒井 茂(総務部TL)

(順不同、敬称略)

1 開会

2 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第6条により、本業務執行会議が成立した。

3 議長選出

業務執行会議運営規則第5条により、業務執行会議の議長は理事長があたるとされ、岡本理事長が議長に選出された。

4 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第8条により、議長及び出席した構成員が記名押印する。岡本理事長、佐藤副理事長、日野副理事長、浅野業務執行理事がこれにあたりとされた。

[議 事]

1 協議事項(敬称略)

(1)令和8年度事業計画書原案の提示 … 小川事務局長

令和7年のドナーの新規登録者数は、10~30代が全体の74%であった。現在この年代にフォーカスし、この年代のドナーをできるだけ集めたいということで進めていることから、方針どおりに進んでおり今後も続けていきたい。目標は30代以下の新規ドナー登録者を年間3万人にすること。この周知を数年間続けており、関係者間で方向性の一致が深まってきた。

オンラインドナー登録についてはトライアルを重ねており、現在トライアル3を実施中。2026年度は本格導入に向けて、準備を着実に進めていきたい。

本格導入後のドナーリクルート体制の確立に向け、海外の先行事例を踏まえ、各大学に応じた活動を開始し、草の根運動的に広げていく。並行して、語りべ講演がドナー登録に直結し、皆さんの心を動かし理解も深まるため、移植経験者さんを中心に語りべ講演ができる方を増やすなどの体制整備をしていく。ユースアンバサダーが約40名いるが、独自にいろいろ活動していただけるよう、運営に力を入れる。

ドナー登録者がメインとなる公式LINE登録者数について、4万人を超えて順調に増加しているので、リテンションに繋がるコンテンツを発信したい。

コーディネート期間短縮について、これまでの取り組みの結果、部分的な期間短縮を実現できたが、今後さらに移植を急ぐケースにも対応できるよう、引き続き取り組んでいく。「どの患者も最適なタイミングで移植可能なコーディネート体制を実現する」ことを2025年度の目標にしており、できる限り全ドナーが地区コーディネート開始から2週間以内に確認検査実施できるよう目指したが、できていない。

PB採取について、現在採取全体の37%と半数に満たないが、BMに比べてドナーの回復が早いこと、ジーラスタを使用するとドナーの入院日数が短くなるなど、ドナーの負担軽減に繋がるため、こちらをもっと広めたいと考えている。PBの提供回数を1回から2回へ緩和することが決まっているので、システム改修ができ次第、実現していく。

リモートコーディネートの普及が進んでいない。理由の1つに、確認検査にドナーが1人で来院する方式に対応いただける調整医師がまだまだ増えていないことがある。今年度医師向けの説明動画を作成したので、活用して増やしていきたい。

1月から確認検査面談前に、ドナーが説明動画を視聴する運用を変更した。ドナーや調整医師の拘束時間を短縮して、協力しやすい環境を目指す。

リモートコーディネートを本格的に導入したいが、それにあたり確認検査前に視聴する動画について、バージョンアップしてわかりやすいものを制作する。最終同意面談前にドナーが視聴する説明動画について現在制作中であり、完成させたい。家族が視聴する動画も制作中。資料を充実させ、効率化を図りたい。出席する全員がリモートで行うフルリモート方式について、最終同意面談に導入したい。最終面談で、立会人や家族など誰かが電話で参加したり何らかの形でリモートを使った面談が2025年は255件あり、これをもっと普及させたい。

ジーラスタを導入したが、これにより入院日数が2泊3日に短縮でき、また2日目の採取が必要なケースが減るなどドナーの負担軽減に繋がることから、ジーラスタの使用を増やしたい。

開業医の方の調整医師への募集、コーディネートでのペーパーレス化を進めていきたい。

なお、本日のものは原案であり、正式な承認は3月理事会となる。

(主な意見)

<岡本> 若年ドナーを増やしていきたいと思うので、原案を精査いただき、どんなことでも結構なので、次回までに事務局へコメントや質問をいただきたい。

(2)令和8年度予算原案の提示 … 田中総務部長

収入と支出の差引だが、2026年度は約1380万円の赤字予算。

収入について、採取件数想定を1,050件とした。2025年度は前年より若干増の1,050件程度の見通しで、最近の患者登録者数の推移から、今年度見込みの1,050件と同じ件数で設定。寄付金収入は約1億7000万円と想定。このうちの約2,000万円は患者負担金等支援基金からの取り崩し分になるので、実質的約1億5000万円の想定で設定している。スワブの本格導入を2026年度予定しており、関連した補助金約2億円を計上している。この2億円に関しては、2025年度の補正予算の全額繰り越し分。この前提で、収入合計が約17億1000万円程度を見込んでいる。前年度予算比で約1億5000万円収入増となっているが、主な要因は、スワブ関連補助金と移植件数を20件ほど多く想定したことによる受取患者負担金と医療保険財源収入の増。

支出について。経常費用計は約17億2500万円。こちらは前年度比で約1億4000万円弱の増加。支出面のトピックとしてはスワブ本格導入にかかる費用。HLA検査費用や広報のPR関連費用等が大きくなっている。職員が使用しているPC、コーディネーターのスマートフォン等について入れ替えを予定している。また、業務効率化に向け、さらなるデジタル化推進として、経費精算などの業務をシステム化する予定。

これら収入と支出の差し引きで、1,380万円の赤字予算。若干大きめの赤字には見えるが、システムの減価償却費等が2,800万円ほどあり、1,380万円の赤字というのは帳簿上の数字でキャッシュが出ていくものではなくバンク運営に支障が出るものではない。

(主な意見)

- <橋本> 移植件数の見込み数について、ナチュラルな見込みか。臨床現場から非血縁移植の要請がこれぐらいあって、それを目指す数という理解でよろしいか。
- <田中> ここ最近の患者登録者数とその数の推移から、予測をしている。
- <岡本> この数字の見込みはなかなか難しい。医療の進歩によって、どこまで移植が形を変えながら進んでいくのか注視していかなければならないが、恐らくここ数年の間については、大きく変化がないと感じている。
- <日野> 様々な医学の進歩があつて、PTCyでハプロが増えたときに非血縁が減るか、ということもあつたが、その後のデータで、PTCyでのハプロはドナーの年齢が高齢であれば、逆に非血縁の若年の方がデータは良いというのが出てきた。非血縁に対してもPTCyが使えるようになったので、コーディネート期間が早ければ、非血縁の方がデータは良い可能性があるもので、本当に目まぐるしく変わっていくような気がする。
- <大西> ここ数年でいうと、極端に今年度・来年度で変わるものではないかなと。また、逆に非血縁の方も少し需要が出てくる可能性もあるか、というところで、件数としては昨年同様というところで良いのではないかと考えている。
- <岡本> 他の医療の進歩などいろいろなことがあるので、予想しきれないと思うが、恐らくそれほど大きく変わらないでよいのではないかと。私たちも先の将来のことを考えて、そのあとのようにバンクのサイズを保っていけばよいかということについては、引き続き検討したいと思う。

事業計画と同様に、何かあれば事務局の方をお願いしたい。次回の理事会で承認決議を行う。

2 報告事項(敬称略)

(1)寄付金報告 … 田中総務部長

令和8年1月度は1,398件、約1,100万円の寄付。年度合計で約1億4800万になり、本当にありがたい。目標1億5000万円と設定していたので、まもなく到達予定。

(2)採取件数・患者登録数報告 … 田中総務部長

令和8年1月の採取件数は国内BM40件、国内PB37件、国際1件、合計78件。今年度 1,050 件程になるのでは。国内の患者登録者数は148名。

(3)調整医師新規申請・承認の報告 … 関移植調整部長

令和8年1月は、新規申請なし。異動・辞退4名、現在数 1,257 名。

(4)スワブトライアル3協力依頼及び進捗状況について … 水口広報渉外部長

本年1月20日よりスワブ登録トライアル3を開始。本日昼時点で 1,958 件のキット申し込みあり、検体の返送も、130 件を超える数となっている。ただ、日本赤十字社へのドナー登録完了は、まだこれからであり、できる限り3月末までに 3,000 人登録完了といたしたく、目標掲げて進めている。ペース的には、キットの申し込み数がまだ足りていないという認識を持っており、スワブトライアルの実施につき皆様の協力をお願いしたい。

以上